

## [ 国会議員（発言順） ]



袖木 道義 議員（衆議院 民進党/衆議院 厚生労働委員会 理事）：

法案の対象の拡大や受動喫煙の扱い等、党内での議論ももちろんございます。民進党の医療の法案の担当ともしっかりと連携をして、また、今日お集まりの各党の関係者の皆さまがしっかりと受けとめさせていただいて、法案が少しでも前に進んでいくように、皆さまとともに力を合わせて頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

岡本 充功 議員（衆議院 民進党）：

今日は皆さんのこの熱意、十分承りました。またしっかりと頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いたします。



山口 和之 議員（参議院 日本を元気にする会）：

医療奉仕でリハビリテーションセンター、あるいは病院のほうで30年ほど脳卒中にかかわらせていただきました。中山先生（司会）の熱い思いというのは、もう最初からずっと受けとめておりました。なぜ通らないのかというぐらいの話です。今日も参加されている皆さんからたくさん、参加して声をかけてくれという声 comes。毎回毎回、皆さんにご迷惑をかけてますが、今度こそ、よろしくお願いたします。

小松 裕 議員（衆議院 自由民主党/衆議院 厚生労働委員会 委員）：

一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



赤枝 恒雄 議員（衆議院 自由民主党/衆議院 厚生労働委員会 委員）：

国会でただ一人の産科医でございます。数年前に妊婦さんが脳溢血でたらい回しで亡くなった事件もございました。しっかりと頑張ります。

階 猛 議員（衆議院 民進党）：

岩手県は寒い地方でございまして、ヒートショックなどで脳卒中や循環器系の病気で亡くなる方も多いたと思います。また、食生活の関係もあって、塩分のとりすぎで、脳卒中になられる方が多いということで、大変この問題については関心を持っております。ぜひ皆さまからたくさんご教示いただいて、そして、この対策を一步でも二歩でも早く進められるように頑張りたいと思います。



原口 一博 議員（衆議院 民進党）：

妻が3年前に脳卒中で倒れ、亡くなりました。人ごとじゃない、一刻も早くこの法律を通したいと思いたいます。

古川 俊治 議員（参議院 自由民主党）：

私は外科医でございます。妻は循環器内科医でございます。自民党のほうで医療に関する事務局長をやっておりますので、しっかりこの場をおして議論をしていきたいと思っております。皆さんのお力添え、よろしくお願い申し上げます。



阿部 知子 議員（衆議院 民進党）：

私は小児科医ですが、この前の解散によって、この法律がここまで延びていることを申し訳なく思います。急性期も大事、リハビリも大事、とにかくやっぱり1日も早く法が成立して、皆さんのこれまでの思いが実ることを願っております。

後藤田 正純 議員（衆議院 自由民主党）：

この法案、政局を乗り越えて、しっかり超党派で早急に法案として上げたいと、このように思っておりますので、皆さん頑張っていきましょう。



高木 義明 議員（衆議院 民進党）：

私の母も脳卒中で倒れました。皆さん方の思い、しっかり受けとめて頑張りたいと思っております。

鈴木 克昌 議員（衆議院 民進党）：

基本法で実現できることをしっかりとやらさせていただきます。頑張ってください。



伊東 良孝 議員（衆議院 自由民主党）：

私の親しい友人が循環器あるいは脳外科の先生でいつも聞かされているところであります。基本法の成立に向けて頑張ってください。

小川 克巳 議員（参議院 自由民主党/参議院 厚生労働委員会 委員）：

私も理学療法士でございます。父が心筋梗塞で亡くなっております。また、近親者2人も、解離性大動脈瘤破裂で亡くなりました。そうしたことから、脳卒中にしてもそうですし、循環器疾患でもそうなんですけども、我々にとって身近な疾患であります。こういった疾患に対して、基本法ができないということがそもそもおかしいというふうに私も思っております。精いっぱい努力をしたいと思います。





石田 昌宏 議員（参議院 自由民主党）：

私は看護師なんですけど、一番最初に勤めた病棟が循環器の内科の病棟で、かなりこの問題は自分の課題だというふうに思っています。理論だけじゃなくて、介護とか生活のそのものに大きな影響を与える疾患ですから、しっかり取り組んでまいりたいと思います。

斎藤 洋明 議員（衆議院 自由民主党）：

新潟県も寒冷地ということで、脳卒中、循環器疾患が非常に多い県でございます。先生方のご指導をいただきながら、法制に向かって頑張っております。



中山 展宏 議員（衆議院 自由民主党）：

4月15日に地元で心臓血管セミナーをさせていただきました。大変大盛況でございました。皆さまのご尽力に心から敬意を表してまいりたいと思います。

宮島 喜文 議員（参議院 自由民主党/参議院 厚生労働委員会 委員）：

私は行政や臨床の現場で長らく病院で臨床検査を担当しておりました。皆さまとともに一緒に頑張ります。



上野 賢一郎 議員（衆議院 自由民主党）：

全面的に賛成です。全力で頑張らせていただきたいと思います。

杉尾 秀哉 議員（参議院 民進党）：

私は3年前に父が心筋梗塞で倒れまして、親の死に目に会えませんでした。それと前後して、中学校時代の親友、大学の親友、それぞれ心臓病で倒れまして、家族が発見したときには既に息を引き取って、とても、とても本当に人ごととは、私も含めて思えません。皆さんの思いに応えられるように頑張ってお参りたいと思います。



新谷 正義 議員（衆議院 自由民主党/衆議院 厚生労働委員会 委員）：

この基本法成立に向けて、しっかり尽力してまいります。

石井 正弘 議員（参議院 自由民主党）：

私は息子が2人医師でございます。したがって、全力で成立に向かって頑張ります。



山田 修路 議員（参議院 自由民主党）：

法案成立に向けて、しっかりと頑張っていきたいと思います。私の父や知人も多くこの病気にかかっております。頑張ります。

三ッ林 裕巳 議員（衆議院 自由民主党/衆議院 厚生労働委員会 理事）：

私、循環器の内科医であります。この脳卒中も心筋梗塞も血管病でありますから、とにかくもう時間との勝負であります。そういった体制をやはり日本全国津々浦々にやらなくてはいけないと思っております。とにかく厚生労働委員会理事としても、しっかりとこの法案、今国会で詮議することに全力を尽くしてまいりたいと思います。



中川 雅治 議員（参議院 自由民主党）：

先生方のご指導をいただきながら、法案の成立に向けて、私も全力で頑張っております。

渡嘉敷 奈緒美 議員（衆議院 自由民主党/衆議院 厚生労働委員会 理事）：

国立循環器病センターの向いの薬局で薬剤師として勤務をしておりました。多くの病人の方々にお目にかかって、これは予防すればきっと助かる命がたくさんあると。その後のケアも大切だということで、これだけ基本法をつくって救われる方が多い法律はないんじゃないかなと、それを確信しておりますので、ともに頑張っていきましょう。



河村 建夫 議員（衆議院 自由民主党）：

もうこの法律、ここまでできておるようでございます。今日、これだけの皆さんが集まれたんですから、一気に呵成に成立を目指して頑張っております。

羽生田 俊 議員（参議院 自由民主党/参議院 厚生労働委員会 委員長）：

一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。





神谷 昇 議員（衆議院 自由民主党）：

息子が整形外科医をしております、ちょうど2歳のときに川崎病を患いました。それで国立循環器病センターにもお世話になりました。そんなことで一生懸命頑張っております。

河野 正美 議員（衆議院 日本維新の会/衆議院 厚生労働委員会 委員）：

私はもともと精神科医でございます、福岡で精神科の病院の、今も理事長をしているところでございます。今日はわが党からもたくさん来させていただいておりますが、担当としてしっかり頑張りたいと思います。



高橋 千鶴子 議員（衆議院 日本共産党/衆議院 厚生労働委員会 委員）：

前回の集会のときよりもたくさんの議員が集まっておりますので、絶対成立させたいと思います。

東 徹 議員（参議院 日本維新の会）：

もう今国会で必ず成立できるように、私も頑張りますので、どうぞよろしく願いたします。



伊東 信久 議員（衆議院 日本維新の会）：

私自身も医師免許を持ってまして、整形外科医をやっております。救急救命、脳外科のほうでもやらせていただいたんですけども、昭和6年生まれの私の父が15年前に脳梗塞になりまして、家で助かりまして今びんびんしております。この法案、しっかりと頑張らせていただきたいと思います。

馬場 伸幸 議員（衆議院 日本維新の会）：

東徹参議院議員と私は、この法案の口切り役でありました中山太郎元衆議院議員の弟子でございます。我々はそういう意味でもこの法律を絶対に通すということで、ここで皆さま方に必ず全党を挙げて成立させるということをお誓い申しあげて、ご挨拶にかえさせていただきます。



松沢 成文 議員（参議院 無所属）：

私は、この心臓病、脳卒中と最も関係の深いタバコ対策にずっと取り組んでおりまして、神奈川県知事をやったときには、全国で初めて受動喫煙防止条例をつくらせていただきました。今、東京五輪に向けて国会のほうでも受動喫煙防止のための法律を協議しているところでありまして、ぜひとも、逆のお願いにもなってしまいますが、この法律も国民の健康を守るための法律ですので、皆さま方の全面的なご支援をお願いをいたしまして、ご挨拶にします。

園田 修光 議員（参議院 自由民主党/参議院 厚生労働委員会 理事）：  
しっかりとこの基本法の成立に向けて頑張っていきたいと思ひます。



森山 裕 議員（衆議院 自由民主党）：  
基本法の大事さはよく承っておりますので、成立に向けて微力を尽くして参ります。

小倉 将信 議員（衆議院 自由民主党）：  
皆さん方と気持ちを同じくして頑張ります。



石崎 徹 議員（衆議院 自由民主党）：  
私も今この必要性を伺いましたけれども、なぜ今までこの基本法がなかったのかと不思議なぐらいこの法律の重要性というのは高いというように思っておりますので、先生方と力を合わせて法律の成立に向けて頑張っていきたいと思ひます。

堀井 巖 議員（参議院 自由民主党）：  
対策の重要性、そして、法案の必要性、何度も伺っております。微力ながら成立に向けて努力いたします。



佐藤 啓 議員（参議院 自由民主党）：  
しっかりと頑張らさせていただきます。

森本 真治 議員（参議院 民進党）：  
私も皆さんとしっかりと力を合わせて、一日も早い成立に向けて頑張っていきたいと思ひます。





齋藤 健 議員（衆議院 自由民主党）：

私の祖父も祖母も脳卒中で亡くなりました。この法案に反対する人っているんでしょうか。頑張ります。

坂井 学 議員（衆議院 自由民主党）：

今日、これだけ多くの与党、そして野党の、しかも厚労委員会に関係をする厚労部会に関係をするといった先生方が応援をしてくださるということはこの目で見て、この法案、大丈夫だろうと確信をしたところでもございます。ともに力を合わせてまいりたいと思います。



石井 みどり 議員（参議院 自由民主党/参議院 厚生労働委員会 委員）：

10年前から取り組んでいます。どうぞ皆さんと力を合わせて、何としてもこの国会で成立させたいと思います。私もくも膜下出血の既往者であります。母もくも膜下出血をやりました。この基本法、絶対に必要です。成立すれば日本全国で最も必要な治療が受けられることとなります。どうぞ今、超党派すべての会派の先生方、賛成っておっしゃっていただきました。これを本当に法律にするためには、患者さん、学会の先生方、皆さんと力を合わせる必要があります。何とぞよろしくお願い申し上げます。

尾辻 秀久 議員（参議院 自由民主党）：

10年頑張ってまいりました。今度こそ何とかしましょう。頑張りましょう。



小西 洋之 議員（参議院 民進党）：

私も5年間、この法律に携わっております。私も父親は脳卒中で21年寝たきりでした。循環器の患者の皆さんの、ご家族の皆さんのためにも、今国会でぜひ成立をさせるように民進党の中でも頑張ります。

菅家 一郎 議員（衆議院 自由民主党）：

やっぱり医療、保険、福祉は大きな課題がり、私の父親が、大学4年のときに脳血栓で倒れて、右半分麻痺になって、ちょうど介護で戻った経験がありましたが、皆さま方の思いは非常に強く感じておりますので、しっかりと貢献してまいりたいと思います。



土屋 品子 議員（衆議院 自由民主党）：

非常に脳卒中のことや循環器系の問題、重要な問題だと思っています。それと、栄養士として食と健康ということでも、非常に大事だと思っていますので、ぜひ皆さまとともにこれを進めていきたいと思っています。

福岡 資麿 議員（参議院 自由民主党）：

私が委員会の理事をやっているときからの懸案事項でございますから、皆さま方と力を合わせて頑張っていきたいと思っております。



自見 英子 議員（参議院 自由民主党/参議院 厚生労働委員会 委員）：

私もこの問題、脳卒中・循環器対策基本法ということで、長年にわたりましてご尽力してくださっていることに心からの敬意を感じております。医療業界の要望といいますものが、実は永田町におりますと本当によっぽどの圧力と熱意じゃなければ実現しないというところは目の当たりにさせていただいております。私自身も実は小児科で生育基本法というものを掲げておりますけれども、こういった超党派によって多くの国会議員の先生方にご理解をいただき、そして、一致団結して進んでいくということが何より大事なことであります。大もとは患者さんのことを思うと、そして、ご家族の方を思うと、リハビリに取り組んでくださっている患者さまと支えているスタッフと、こういう社会が実現してほしいという大もとは患者さまに対する愛があるわけでございます。ぜひ、私もこの脳卒中、そして心臓病に関しまして、もっともっと国民の理解が深まればいいと思っておりますし、何よりも永田町、霞が関の理解が深まる、その一助になればこんなにありがたいことはないと思っております。医療界の、医療、介護、福祉の代表選手の1人として、ここにご列席の超党派の国会議員の先生方と一緒に頑張りたいと思っておりますので、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

平口 洋 議員（衆議院 自由民主党）：

一生懸命勉強して、皆さんの言うとおりに頑張りたいと思っております。



富岡 勉 議員（衆議院 自由民主党/衆議院 厚生労働委員会 委員）：

もともと消化器外科をしております、地元のほうの循環器の先生等から非常に強い要望をいただいております。やはりこの疾患というのは、将来介護が必要になる頻度というのが大変高く、危惧するところであります。したがって、超党派で、どういう格好で法案を仕上げればいいのかと、ずっと検討している状態で、これからいろいろなディスカッションしながら、患者の多くの団体の皆さまの意見を聞きながら、法案を仕上げたいと思っております。

福島 瑞穂 議員（参議院 社民党/参議院 厚生労働委員会 委員）：

私は議員になって19年目になるんですが、ほぼ厚生労働委員会に所属をしております。初め脳卒中の皆さんたちが法案をつくりたい、何とか早くつくりたいと言って来られて、循環器病とジョイントする、あるいはそれが脳卒中というのもしっかりちゃんと取り上げてほしいということもあり、でも、1つに脳卒中・循環器病対策基本法という形で、今国会の成立を目指すということに社民党も私自身も全面的に支援し、頑張っていきたいと思っております。がんや自殺や、いろんなものもそうですが、基本法ができるとさまざまな施策と基本計画と予算がついたり、これが足りないあれが足りない、こうしようと、失語症の話がありましたが、有効な施策がもっと総合的により強く打ち出してやっていけると思っております。法律があるとないのでは、やっぱり政府あるいは国会の力の入れ方、予算のつけ方も政策も変わってくるというふうに思っております。基本法の制定に向けて、厚生労働委員会ですっかり頑張るっていう決意を申しあげて、私の心からの挨拶といたします。

